

平成21年度
砂つけ試験

実施計画書（案）

平成20年6月

目 次

	頁
1. 試験目的 -----	1
2. 確認項目 -----	1
3. 試験場所 -----	1
4. 試験の実施フロー -----	2
5. 試験期間 -----	2
6. 砂の投入 -----	3
7. 試験項目と内容 -----	4

1. 試験目的

塩浜1丁目隅角部の静穏域を利用して、砂を投入した場合の砂の挙動と、そこに現れる生物相を確認し、今後の護岸バリエーションの検討に活用していく。

2. 確認項目

確認項目は以下とする。

砂の挙動

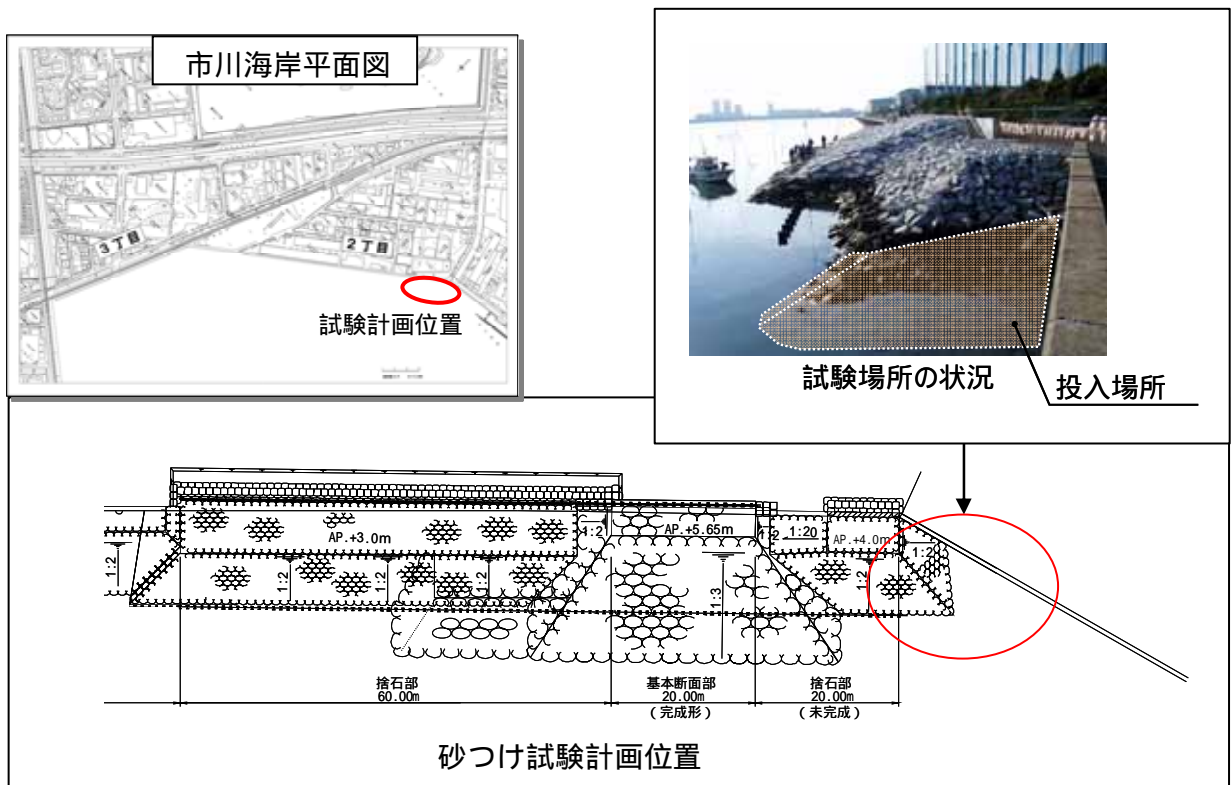
- ・ 測量によって変状を確認する。

生物相

- ・ 生物調査を行って、どのような生物が確認されたかを整理する。

3. 試験場所

試験場所は塩浜1丁目隅角部とする。



4. 試験の実施フロー

試験の進め方は以下を考えるものとする。



図4-1. 砂つけ試験の実施フロー(案)

5. 試験期間

本試験の試験期間は以下を考えるものとする。

自：平成21年6月 ~ 至：平成22年5月

6. 砂の投入

置き砂の投入概要を以下に示す。

投入量

- ・ 隅角部の規模を考慮して100m³程度とする。

砂の調達

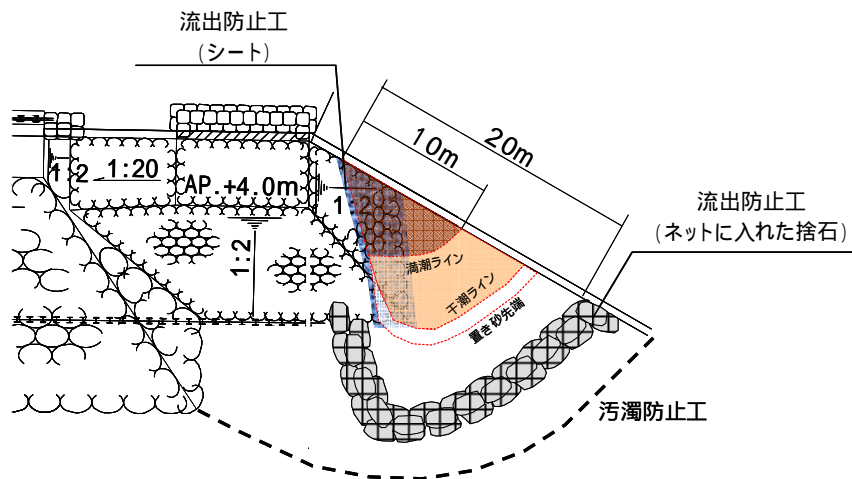
- ・ 近隣の海浜砂、または購入砂を調達する。

投入時期

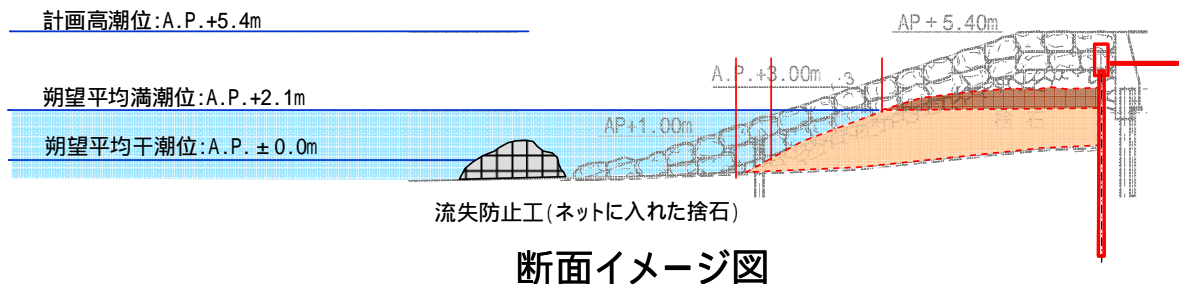
- ・ 6月の大潮時に公開で実施する。
(大きく潮が下がる時期に、投入前の観察を行った上で投入する)

投入概要

- ・ 以下の要領で投入する。
- ・ 汚濁防止工の設置による海水の濁りの拡散防止を図る。



平面イメージ図



断面イメージ図

7. 試験項目と内容

(1) 砂の性状調査

本試験に用いる砂について土壌分析、粒度調査および生物確認試験を行う。

(2) 観察

砂の投入後、現地の観察を行う。

実施する観察内容等について表7-1に示す。

(3) とりまとめ

とりまとめは以下について行うものとする。

置き砂の変形経緯

生物観察結果

表7-1 砂つけ試験の観察計画（モニタリング）

区分	項目	目的	方法	時期（間隔）	数量等
検証項目	置き砂	・隅角部の微地形の変化の把握 ・浅場（砂）形成の可能性の把握等	投入	春季：6月(H21)	・大潮時に実施
			地形測量	年2回＋イベント(台風等の高波)後 護岸工事のモニタリングと同時期	・置き砂投入範囲の中で4地点
			生物観察	夏季：9月(H21) 冬季：1月(H22) 春季：4月(H22) の年3回 護岸工事のモニタリングと同時期	・方形枠(50cm×50cm)による目視観察 ・潮間帯で1箇所
検証材料	波浪・流況	物理環境への外力(波、流れ)把握を目的とする。 ・波高・波向の計測 ・流れの計測(海底面上約1m)	波高・流速計の設置	護岸工事のモニタリングと同時期	・測線No.82の護岸前面の1箇所(30日～60日連続観測；目的とする外力が把握される時点までとする)
	青潮時の溶存酸素量測定 生物環境への外力把握を目的とする。		DO計による測定	護岸工事のモニタリングと同時期	・第1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面